（様式２）報告書

令和５年度　(インクルーシブ教育実践研究校 B)報告書　宇品東小学校

１　学校の課題

本校は，令和３年度と令和４年度の２ヵ年に渡りインクルーシブ教育システム構築実践校として，「配慮の必要な子どもの理解と集団づくり」についても研修をしている。今年度，教職員に６月にアンケートをとったところ，インクルーシブ教育やユニバーサルデザインについて理解していると肯定的な意見が８割を超えていた。しかし，児童の認知特性を理解し，支援している割合は６割程度にとどまった。

このことから，本校の教職員は全ての児童が参加できる授業づくりを目指しているが，該当児童の的確な実態把握ができておらず，それに基づく必要な支援ができていないことが分かった。

そこで，本年度も学級経営の中心的課題を「特別な教育的支援を必要とする児童への指導の充実」とし，授業のユニバーサルデザインを意識した授業づくりを校内研究のテーマに設定する。授業改善の視点から児童に寄り添うとともに，個別の教育的ニーズのある児童への教育の充実「読み書きに困難な児童への支援と評価」の研究を行うこととした。

２　研究主題

児童の困難さを踏まえた算数科授業づくりと評価

～読み書きが困難な児童への支援を中心に～

３　取組内容

（１）教職員のインクルーシブ教育に対する意識の向上

【授業のユニバーサルデザイン意識した授業づくり（算数科を中心に)】

① 講師を招聘した研修を計５回行い，インクルーシブ教育や取りこぼしがない算数科の授業づくりなどについて学んだ。

② 授業づくりについて教職員で意識統一をした。

・支持的風土のある学級づくり（学習規律の徹底や学習環境の整備）

・授業のユニバーサルデザイン化に向けた指導方法の工夫（視覚化・焦点化・共有化や「学びの流れ」の基本パターンなど）

・ICT 機器を活用した支援（全体共有の場や個別の支援）

【「インクルーシブ通信」の定期的発行】

特別支援教育コーディネーターが環境整備についてや授業の進め方，合理的配慮の実際などについて記載されたインクルーシブ通信を発行した。特に，本校が実践している学級づくり（ユニバーサルデザイン化された授業や生活のきまり，教材など）合理的配慮などの取組を積極的に掲載することで教員同士が参考にできるようにした。また，研修後や指導主事来校の際の助言を通信に載せ，全体共有できるようにした。(資料①)

（２）実態把握

【実態把握シートの活用】(資料②)

児童の実態を把握するために，観察した際には，読み書きへの困難さがどこから生じているのかをしっかりと観察した。担任，専科，学習サポーターなど様々な視点で観察し，その度に共有した。苦手なことだけでなく，得意なことを知ることで児童の良さを伸ばしつつ，どんな支援をすれば，困難さを補うことができるかを

考えた。

担任や保護者と共有する際には，内閣府が出している『「合理的配慮」を知っていますか？』の資料を参考に実態把握シートを作成し，活用することで情報共有した。良いところと困っているところ，なぜそうなるのかという背景を記載することで，必要な支援がより分かりやすくなるようにした。

（３）合理的配慮を含む必要な指導・支援（主に読み書き）

今年度も，どの学年にも合理的配慮を含む支援が必要な児童はいるため様々な支援を行ったが，その中でも３年生２名の児童への取組を報告する。

① A 児（主に読みに課題）

実態

A 児は，漢字を読むことが苦手で１年生程度の漢字しか読めていないことが多い。漢字が読めなかったり，集中して文字を読むことができなかったりするため，テストは一人で取り組むことが難しい。

背景

・目で見ることが苦手で，耳からの情報の方が入りやすい。（読み上げた後自分で繰り返してもう一度言う様子が度々あった。）

・テストの文字を読むことが難しいため，全部を読まず最初の言葉で判断し，諦めてしまう。

合理的配慮を含む支援

・デイジー教科書を使ったり，教科書にルビを打ったりすることで，学習内容を理解させる。

・教科書を読む際には，スリットを用意し読むところだけに集中させる。

・テストは全てルビがついたものを提供し，担任がついて読み上げをしたり，Keynote の音声機能を活用したりすることで，最後まで読み内容を理解させる。

② B 児（主に書きに課題）

実態

B 児は，文字のバランスをとることが難しく，また書いた文字がますからはみでることが多い。そのため，書いた文字を読み返したときに自分が書いた文字が読めないこともある。文字を書くことへの苦手意識が強いため，学習意欲が低下し，ノートをとらないこともある。

背景

・文字を書くことへの苦手意識がある。（バランスがとれない，ますに入りきらない）

・５mm方眼に書く小さい文字では，形をとることが難しい。

合理的配慮を含む支援

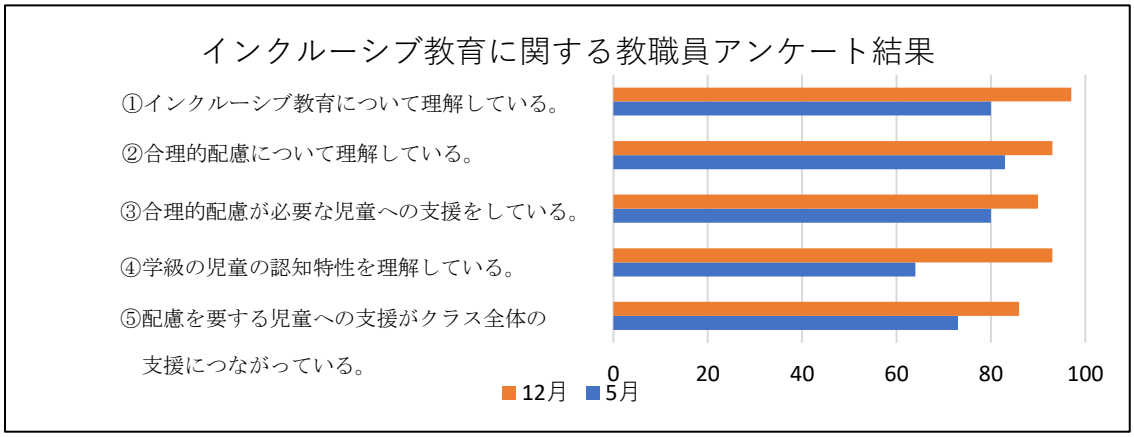
・ますからはみ出してもよいこととし，安心して書くことができるようにする。（ノートの変更は本人が嫌がったため同じノートを使った。）

・文字を書く時には，答えや単文を入れるだけになるよう，ワークシートを工夫することで，書くことの負担を軽減をする。

・筆算などの書くことが多い宿題は，答えだけ書けるように問題を書いておくことでやり終える喜びを感じさせる。

４　検証結果

（１）　教職員のインクルーシブ教育に対する意識の向上



【教職員アンケート　自由記述】

・インクルーシブ通信に載っていることを参考にすることができた。

・保護者との協力の上で本当の効果を発揮するものだと感じ，勉強になった。

・該当児童へは，様々な合理的配慮を行ったが，対象としていない児童に対してじっくり取り組むことができなかった。

以上の結果から，インクルーシブ教育や合理的配慮についての理解が深まり，日々の実践に生かすことができている教員が増えてきたことが分かる。１２月には，児童の認知特性を理解している教員が９割を超えた。また，担任から，「クラスの児童が読み書きができなくて困っている様子がある。」と相談を受けることが増えてきた。「宿題をこう変えてみようと思う。」「児童に合理的配慮を行ったら取り組むようになったよ。」と取り組んでいる報告を受けることが増え，教職員が児童の認知特性を理解し，支援しようとする姿が多く見られるようになった。

（２）　実態把握

様々な支援について実態把握シートを活用することにより，担任も特別支援 Co も「なぜその支援をするのか」「その支援をすることで本人にとってどんな良さがあるのか」などを考えながら，実態把握を行うことができた。そして，担任や特別支援 Co で観察，専科や学習サポーターなどにも聞き取りをし，様々な視点から児童の良さや困難さを理解することができた。

また，保護者に実態把握シートを見せた時には，保護者から「ここに書いてあるように，こういうところが得意だから伸ばしていってほしい。」「ここが苦手だから，こうしてもらえると助かります。」という言葉があり，児童の良さを共有したり支援を一緒に考えたりすることができた。

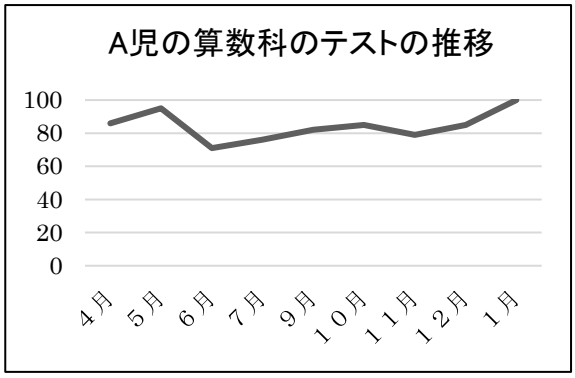
（３）　合理的配慮を含む必要な指導・支援の結果

①　A 児（主に読みに課題）

教科書にルビをうつことで，しっかりと声を出し読むことができるようになってきた。また，読みやすくなる工夫として，複数のスリットから一番読みやすいものを選択したり，自分で文章に区切り線を入れたりする等，自分にとって最適な支援は何かを児童自らが考え，実践する姿が見られた。

テストでは，一人だと全く取り組もうとしていなかったため，４月から担任が読み上げに加えてテストの解説を入れながら取り組んでいた。解説を入れると評価に影響があるため９月から読み上げのみを行うようにした。読み上げをしている児童が他にもいることもあり，児童一人で受けることができるように１２月からは，

Keynote にテストの文章を録音し，それをテスト中に聞かせた。すると，問題を１度で理解できなかったところは何度も聞き直し，答えが間違えたことにも気付き，直すことができるようになった。本人も「先生に読み上げてもらうのもタブレットで聞くのもどっちも分かりやすい。」と言っていた。
１月終わりに行ったテストでは，今年度初めて１００点をとることができ，本人も喜んでいるようだった。一人で内容を理解し最後まで一人でテストを受けることができるようになり，テストへの意欲も上がっている様子が見られた。



② B 児（主に書きに課題）

書くことへの苦手意識が大きく書かないときもあったが，ますを意識しなくてもいいという安心感から最後までノートをとることができるようになってきた。ワークシートにして書く量を軽減すると，文字のバランスを考えながら最後まで書ききることもできている。また，書くことが多い筆算などの宿題はやらないこともあったが，宿題の問題を担任が書くことで最後までやりきることができるようになった。（図１）

表１の結果から，合理的配慮を提供することにより，算数科の学習が楽しいと感じ，進んで取り組んでいることが分かった。安心して授業に参加し，みんなと同じようにできる喜びを感じることで意欲が向上していったと考えられる。

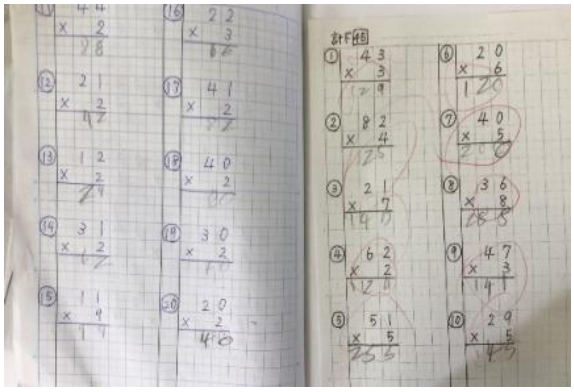


図１　B 児のノート

表１　B 児の学習アンケート結果

項目	前期	後期
①算数科の学習は楽しいと感じますか。	あまり当てはまらない	だいたい当てはまる
②算数科の学習に進んで取り組んでいますか。	だいたい当てはまる	当てはまる
③ペアやグループで話し合うことは楽しいですか。	だいたい当てはまる	だいたい当てはまる

<評価について>

今年度は，算数科において読み書きの合理的配慮を行ったため，評価の変更についてはなしとした。

５　研究成果

【成果】

・教職員のインクルーシブ教育や合理的配慮対する意識の向上
・様々な視点による的確な実態把握
・合理的配慮を含む必要な指導・支援の充実

【課題】

今年度は，算数科における「読み書きの困難な児童の支援」を考えていったが，国語の評価についても考えていかなければならない。